

様式第2号(第2条関係)

尾鷲市特定不妊治療医療費助成事業受診等証明書

下記の者については、不妊治療以外の治療法によっては妊娠の見込みがないか又は極めて少ないと思われるため、特定不妊治療を実施し、これに係る医療費を下記の通り徴収したことを証明します。

年 月 日

医療機関の名称及び所在地
主治医氏名

医療機関記入欄（主治医が記入すること）

(ふりがな) 受診者氏名	夫	()	妻	()
受診者生年月日	年 月 日 (歳)		年 月 日 (歳)	
治療の内容	<input type="checkbox"/> 特定不妊治療（体外受精・顕微授精） <input type="checkbox"/> 男性不妊治療 ・特定不妊治療に関する院外処方の有無※2 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし			
今回の治療期間※1	年 月 日 ~		年 月 日	
領収金額※3 (不妊治療に要した医療費のうち自己負担額)	領収金額 円 (うち保険適用分 円) (うち保険以外分 円) (うち院外処方分 円)			

- ※1) 治療期間については、治療計画の作成日から治療終了日（妊娠判定日または今回の不妊治療の中止を判断した日等）までを記載してください。ただし、主治医の治療方針に基づき、採卵準備前に男性不妊治療を行った場合は、男性不妊治療を行った日から治療終了日までを記載してください。
- ※2) 院外処方がある場合は、主治医が患者から特定不妊治療として支払った領収書の提出を受け、主治医が領収金額を記載してください。
- ※3) 主治医の治療方針に基づき、主治医の属する医療機関以外の他の医療域間（指定を受けていない医療機関である場合を含む）で男性不妊治療を行った場合は、主治医が患者から男性不妊治療として支払った領収書の提出を受け、主治医が領収金額を記載してください。

(注1) 特定不妊治療として助成対象となる治療は次のいずれかに相当するものです。

- A 新鮮胚移植を実施
- B 採卵から凍結胚移植に至る一連の治療を実施（採卵・受精後、胚を凍結し、母胎の状態を整えるために1～3周期の間隔をあけた後に胚移植を行うとの治療方針に基づく一連の治療を行った場合）
- C 凍結した胚による胚移植を実施
- D 体調不良等により移植のめどが立たず治療終了
- E 受精できず、または、胚の分割停止、変性、多精子授精などの異常授精等による中止
- F 採卵したが卵が得られない、又は状態のよい卵が得られないため中止

(注2) 採卵に至らないケース（女性への侵襲的治療のないもの）は助成対象となりません。

○男性不妊治療費のうち助成の対象となる治療は次のとおりです。

- ・特定不妊治療に至る過程の一環として行われる、精巣内精子生検採取法（TESE）または精巣上体内精子吸引採取法（MESA）、その他精子を精巣または精巣上体から採取するための手術等。
- ・指定医療機関からの紹介等により、他医療機関で治療したものを含む。